海外臨床薬学研修　報告書

研修期間：令和 7 年 6 月 4 日～令和 7 年 6 月 14 日
所　　属：名城大学薬学部薬学科
学　　年：6 年
学籍番号：200973217
氏　　名：金澤和桜子

1.　参加目的

米国の薬剤師の職能や薬学生の勉学・臨床研修に対する姿勢を自分の目で実際に見たいと思ったため。また、日本と米国での薬学生の臨床研修、薬剤師のできる業務内容や資格取得の制度の違いが、実際の臨床現場でどのような影響を及ぼしているのかを学びたいと思ったため。

2.　研修内容

【研修テーマ】

米国と日本の薬学教育や薬剤師の職能の違いについて知る。

【研修日程】

月日	研修内容
6 月 5 日	オリエンテーション キャンパスツアー 講義(薬学教育・レジデント制度・医療保険)
6 月 6 日	薬局見学(Rock Creek Pharmacy・Homewood Pharmacy) 学生交流
6 月 7 日	文化交流(地元の市場・Vulcan の像・野球観戦)
6 月 8 日	文化交流(教会・地元のスーパーマーケット)
6 月 9 日	病院見学(Baptist Health Shelby Hospital) シミュレーション体験 無菌調製
6 月 10 日	講義(外来診療)
6 月 11 日	病院見学(Encompass Health・Grandview Medical Center) 輸液調製薬局見学(Solutions Infusion)
6 月 12 日	講義(薬学研究) 体験実験

【研修内容の詳細】

米国の薬学教育や医療保険、無菌調製、外来患者の指導、薬学研究など様々な分野の講義を受けた。また、地域薬局、輸液調製専門薬局、病院など計 6 カ所の施設を見学した。

米国で薬剤師になるためには、2 年間の教育課程を経て薬学部へ入学し、4 年間の専門教育課程を修了する必要がある。薬学部卒業後、NAPLEX という国家試験と、MPJE という州ごとの法規試験の両方に合格すると薬剤師の資格を得ることができる。資格取得後は、レジデントとして専門分野で知識と経験を積み、専門薬剤師の資格を取得することも可能である。

研修中、米国と日本との異なる点を見つけることができた。薬学教育について、米国の薬学部では、1 年次から実習があり、最終学年である 4 年次では、4 カ所(サンフォード大学では 5 カ所)の施設でそれぞれ 4〜6 週間の実習が求められる。また、大学内にシミュレーション施設があり、学生は患者を模したマネキンに対して医療を提供する練習を行う。薬学生だけでなく、多職種の学生と連携しながらシミュレーション教育を受けることもあり、学生は教員からのフィードバックを受けながら、より実践的な臨床現場を体験することができる。薬局・病院では機械化や処方箋の電子化が進んでおり、薬局に関しては調剤した薬を患者宅まで配送するサービスやドライブスルー形式での薬の受け取りが行われていた。薬剤師の補助を行うテクニシャンが数多く働いており、ピッキングの他、薬の在庫管理や TPN 調製を行っていたことが印象的だった。

薬局見学では、輸液調製薬局(Solutions Infusion)を見学させていただいた。輸液の調製を専門としており、日本には存在しない形態の薬局であった。薬局内に無菌室が備えられており、テクニシャンが輸液の調製を行っていた。

病院見学では、入院リハビリテーション病院(Encompass Health)を見学させていただいた。病院内には家、階段、買い物施設などを模した区画が設けられており、患者の退院後の生活を想定したリハビリテーションが行えるような工夫が施されていた。病院内で働く薬剤師は患者の検査値をモニタリングし、薬の用法用量や副作用の有無の確認をしていた。また、入退院の前後でシームレスなケアができるよう、情報収集・情報提供を積極的に行っていた。

3. 感想

今回の研修で米国と日本の薬学教育や薬剤師の職能の違いについて学び、実際に薬剤師が働いている場面を見ることができた。学生は、薬学部 1 年次からの実習や多職種連携教育、シミュレーション教育などを通して、医療現場における薬剤師の役割を理解し、患者や他の医療従事者にどのような働きかけをすべきなのか実際に体験して学びを深めることができ、座学では得ることのできない、臨床を意識した教育が印象的だった。また、米国ではレジデントとして専門分野で知識と経験を積んだ薬剤師が多く存在したり、限られた専門分野において処方権が認められる薬剤師(CPP：Clinical Pharmacist Practitioner)が存在したり、薬剤師の専門性の高さを身に染みて感じた。

しかし、米国でも日本でも、薬剤師が処方監査や副作用モニタリングを行ったり、薬物療法に関して患者にカウンセリングをしたり、患者の安全な薬物療法の実現のために奮闘している薬剤師の姿に変わりは無く、薬剤師が患者の命に携わる重要な役割を担っていることは明白であった。

今回の研修で得た学びを今後薬剤師として働く上で活かし、自分の目指す薬剤師像に近づけるよう精進していきたいと思った。

最後に、サンフォード大学海外臨床薬学研修の実施にあたり尽力してくださった全ての皆様に厚く御礼申し上げます。